



2008年度上期決算説明会
石油化学部門の事業戦略について



代表取締役

常務執行役員 阪本 良嗣

2008年11月4日

本日のアジェンダ

1. 業績動向

- (1) 石油化学部門 連結営業利益推移
- (2) 2008年度業績見通し 下半期の改善要因

2. 2007-2009年度中期経営計画の進捗状況

- (1) 石油化学部門の基本方針
- (2) 主要アクションアイテムの進捗状況
 - ①コア事業の収益力の維持・拡大
 - ②グローバル展開による最適分業体制の構築（P P）
- (3) 合理化の進捗状況

3. 来年度以降に向けて

- (1) 事業環境
- (2) 2009年度に向けて（国内、海外）

業績動向

石油化学部門 連結売上高・営業利益推移

上半期は営業赤字となるも、下半期は採算改善し、通期黒字化

(単位: 億円)

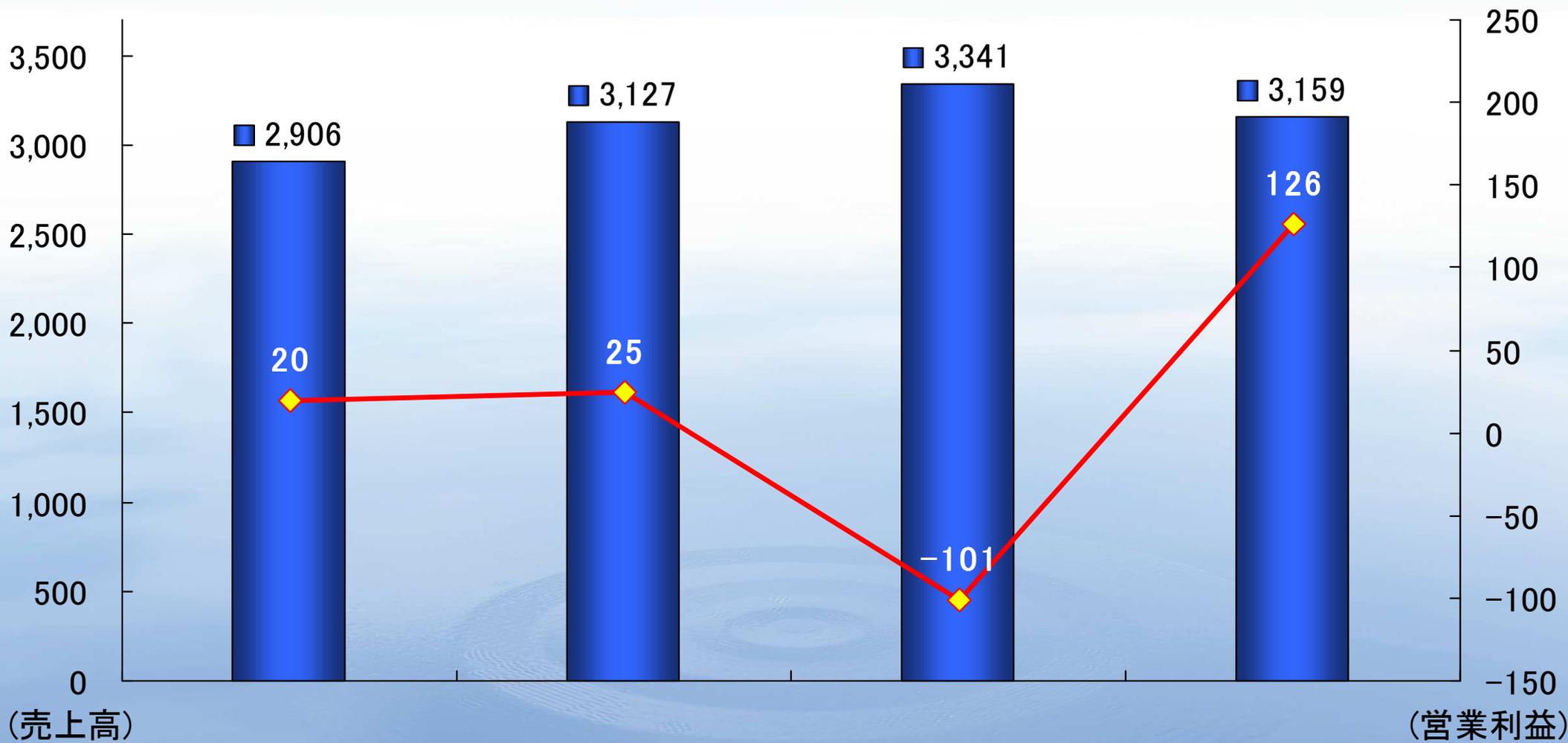
■ 売上高 ◆ 営業利益

07年度上期

07年度下期

08年度上期

08年度下期(予想)



2008年度年間業績見通し 下半期の改善要因

原料価格の下落を背景に、国内合成樹脂を中心に採算が改善

連結営業利益(単位: 億円)

《前提》

国産ナフサ基準価格(千円/kl)

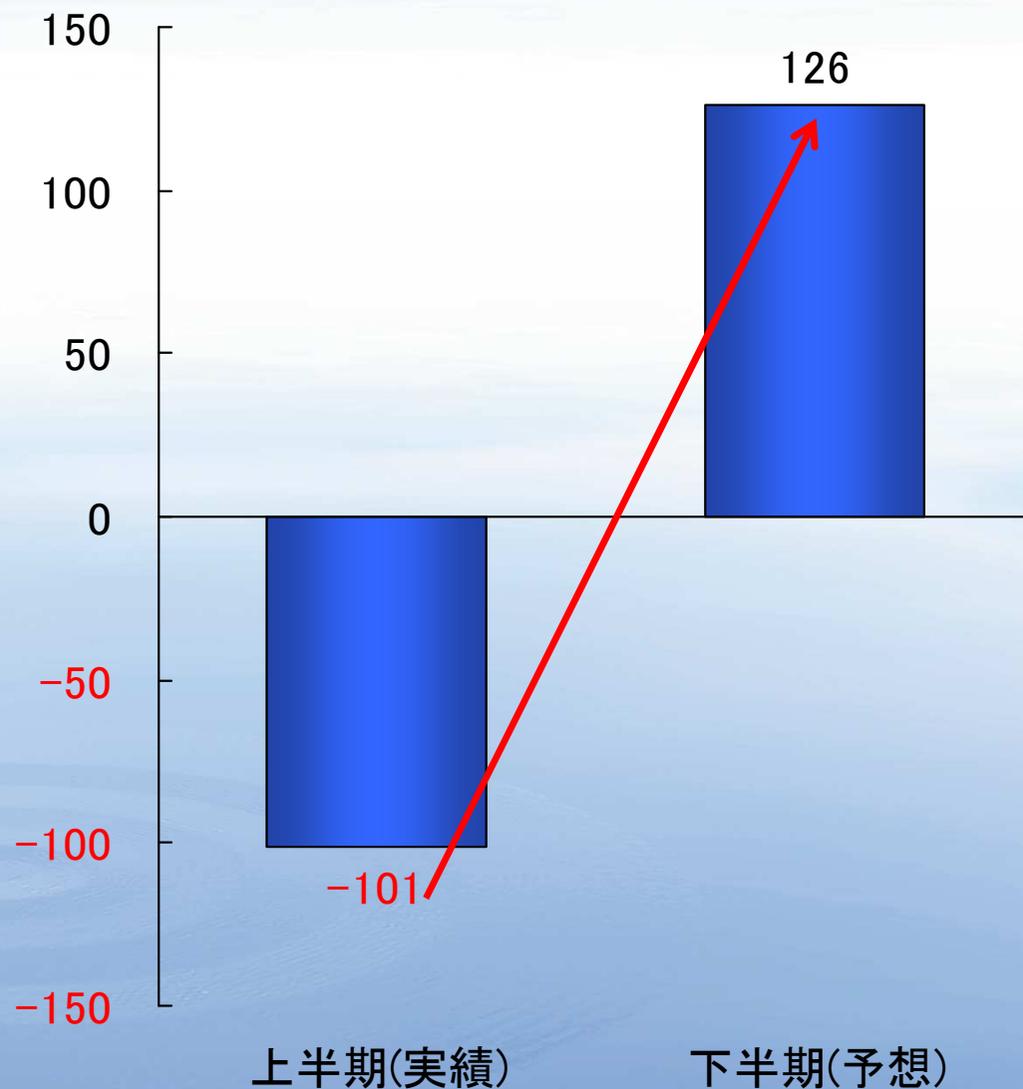
4-6月	7-9月	下期
70.9	85.5	54.0

※ 2008年7月以降は当社推定

① 交易条件の改善 +221億円

- ・プロピレンオキサド、スチレンモノマーを中心に、石油化学品の業績が改善。
- ・国内合成樹脂は、原料価格の上昇に対応した価格改定が寄与し、採算改善。

② 合理化 +6億円



2007-2009年度中期経営計画の進捗状況

石油化学部門の基本方針

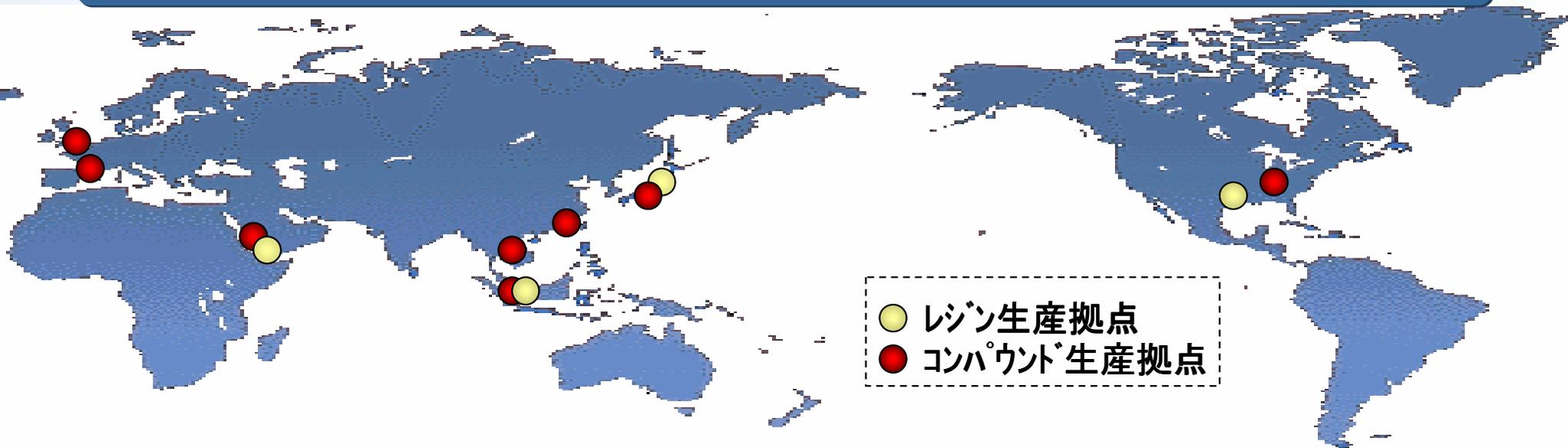
1. コア事業であるポリオレフィンとプロピレンオキサイドの収益力の維持・拡大
2. グローバル展開(日本、シンガポール、サウジ)による最適分業体制の構築
3. 徹底したコスト合理化



主要アクションアイテムの進捗状況①-コア事業の収益力の維持・拡大

事業分野	アクションアイテム	進捗状況								
プロピレン オキサイド	グローバル供給・販売体制確立	<ul style="list-style-type: none"> ・サウジでの新プラント建設中 ・販売体制整備中 (NOCアジア社設立準備中) <p>《参考 当社グループ PO生産能力》</p> <table border="0"> <tr> <td>千葉単産法</td> <td>20万トン/年</td> </tr> <tr> <td>〃 PO/SM併産法</td> <td>18万トン/年</td> </tr> <tr> <td>サウジ単産法</td> <td>20万トン/年</td> </tr> <tr> <td>Σ</td> <td>58万トン/年</td> </tr> </table> <p>(アジア域内シェアNo.1へ)</p>	千葉単産法	20万トン/年	〃 PO/SM併産法	18万トン/年	サウジ単産法	20万トン/年	Σ	58万トン/年
千葉単産法	20万トン/年									
〃 PO/SM併産法	18万トン/年									
サウジ単産法	20万トン/年									
Σ	58万トン/年									
ポリオレフィン	TPC(シンガポール) 自動車用ポリプロピレン生産体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・'08年設備改造完了 								
	PSPC(北米) 自動車用ポリプロピレン生産体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・'08年設備改造完了 								
	千葉 ポリプロピレンの生産体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・'07年8月 溶媒法系列停止 ・気相法系列に集約完了 								
安価原料	千葉 高効率プロピレン生産システム	<ul style="list-style-type: none"> ・現在建設中 ・'09年10～12月スタート予定 								

レジンからコンパウンドまでのグローバル一貫供給体制を確立



海外コンパウンド拠点の拡充

- ・中国... '06年スタート、現在増強工事中(2.2万トン/年)
 - ・欧州... '07年8月スタート(6万トン/年)
 - ・北米 '09年初スタート予定(2.6万トン/年)
 - ・タイ '08年会社設立完了、建設中(1.1万トン/年)
 - ・サウジ '08年会社設立完了、建設中(1万トン/年)
- 生産能力計 12.9万トン/年(中国増強後)

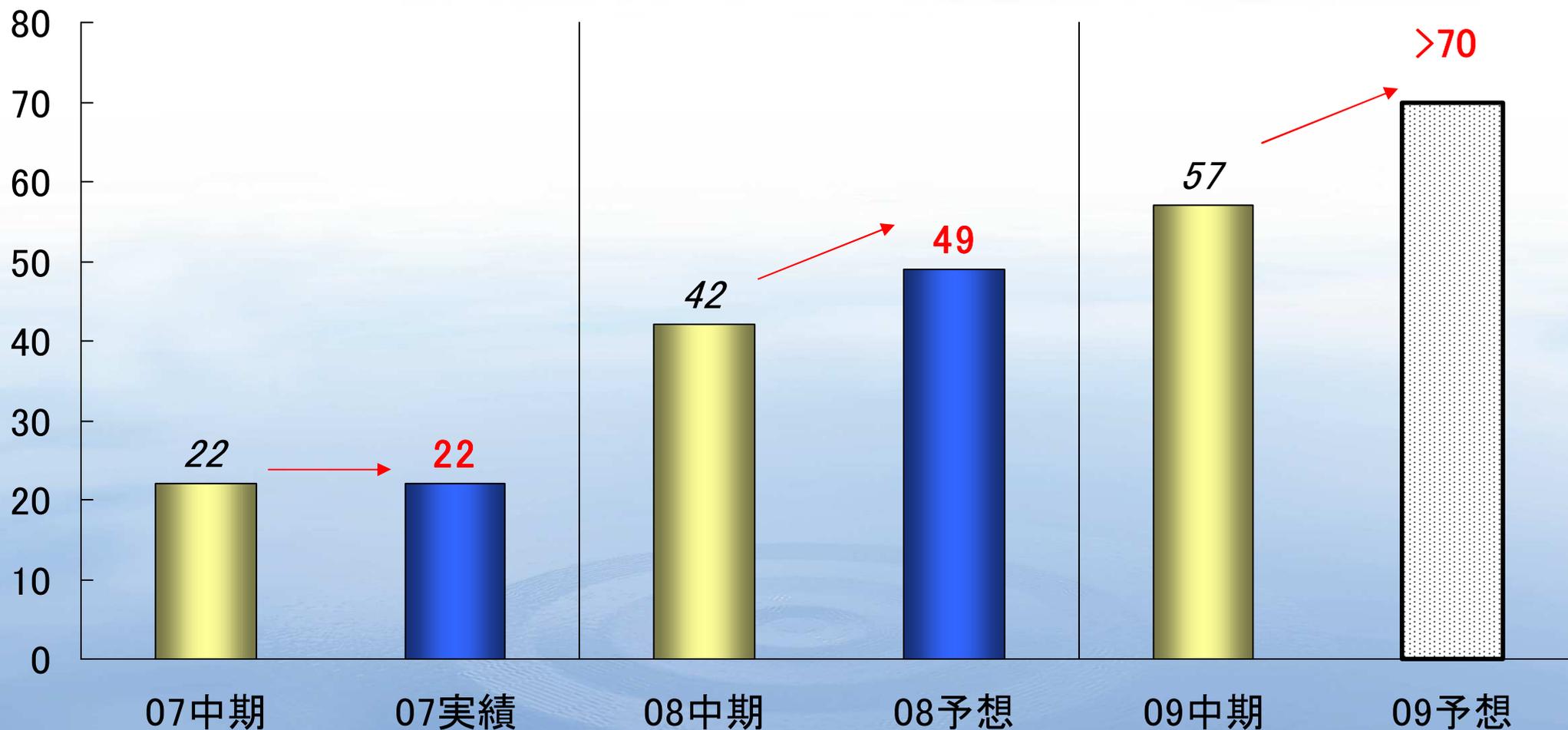
ポリプロピレン(レジン)供給体制の強化

・千葉	33万トン
・シンガポール(TPC)	65万トン
・北米(PSPC)	38万トン
・サウジ(PRC)	70万トン(建設中)
Σ	206万トン

合理化の進捗状況 (06年度対比)

中期計画を上回るペースで合理化を推進

億円



来年度以降に向けて

事業環境

世界経済の先行きは不透明

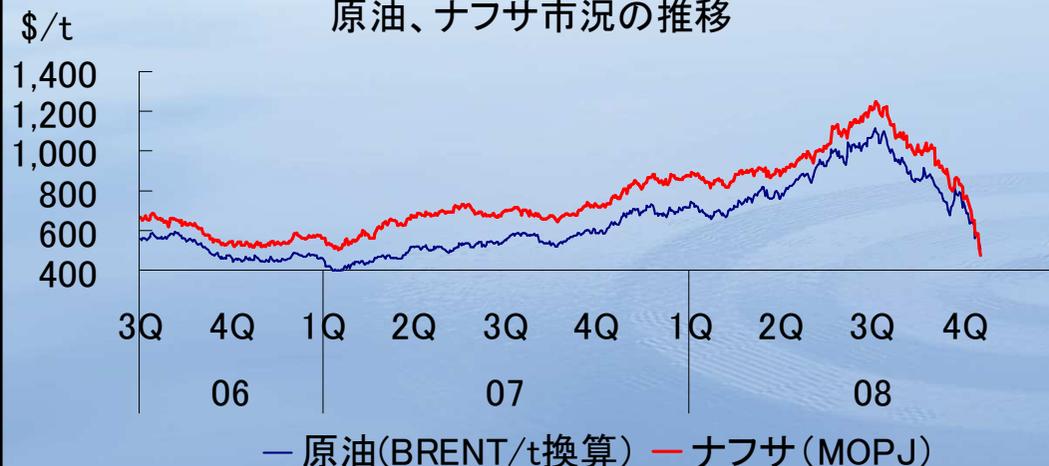
原料価格

- 石油化学製品の需要の伸びに応じて、一貫して上昇を続けてきたものの、今夏から一転、急落している。
- 今後も不安定な状況が続くものと予想される。

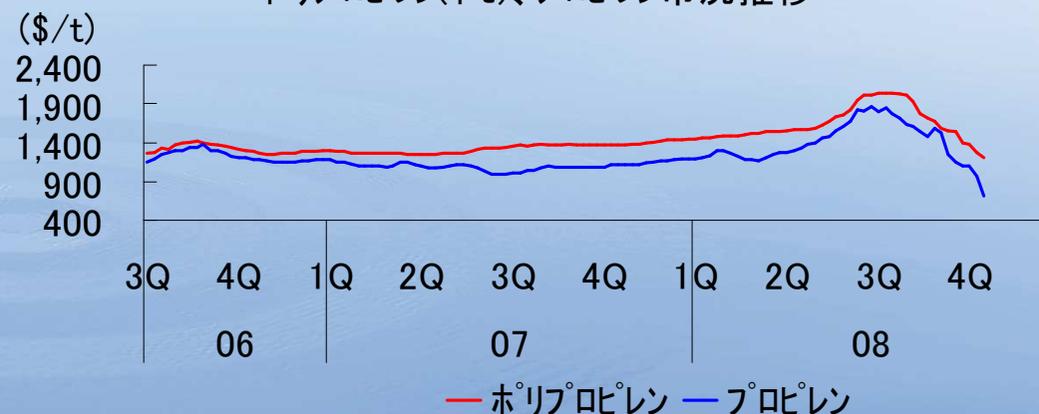
製品市況

- 中東、アジアにおけるプラント新增設が本格化し、アジアの需給バランスはさらに緩和し、基本的には市況は軟調に推移すると予想される。

原油、ナフサ市況の推移



ポリプロピレン(ホモ)、プロピレン市況推移



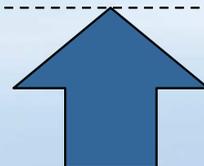
2009年度に向けて～国内

利益の確保を最優先に、一層の収益改善を目指す

・ 高機能・高付加価値製品へのシフトの加速

・ 合理化・コストダウンの徹底

・ 「マザープラント」「マザーラボラトリー」として、
新技術・新製品・新プロセスの開発に注力



2009年度に向けて～海外

グローバル展開により最適分業体制を構築する

- ・ サウジ事業のスムーズな立ち上げ
...安価原料・スケールメリットを武器に、
飛躍的に収益力の高いビジネスを展開
- ・ シンガポール、北米事業の一層の 高付加価値化
...製品の高付加価値化を一段と推進
- ・ ポリプロピレンコンパウンド事業の海外展開の一層の推進

注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な
情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおりま
す。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域を
とりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価
格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れ
られる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与
えうる要素はこれらに限定されるものではありません。